

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <https://www.nankichi.gr.jp>



七月三十日(火)、新美南吉は百十一回目の誕生日を迎えました。今年も記念館では「新美南吉生誕祭」を開催し、期間中來館してくれた方に南吉の生誕を祝っていただきました。

その一つが、誕生日当日に開催した「南吉さんの日」式典です。式典ではまず、半田市長と來賓による挨拶のあと、南吉のエッセイ「私の世界」を南吉童話お話の会「でんでんむし」の松本ちさよさんに朗読してもらいました。これは南吉が安

新美南吉生誕祭
 ～111歳の誕生日をお祝いして～

- ① 南吉へ寄せられたお祝いメッセージ
- ② 半田少女少女合唱団が南吉の詩を歌う
- ③ 朗読「私の世界」(南吉童話お話の会でんでんむし)

城高等女学校に赴任した際、学校のたよりに寄せたエッセイで、自分が愛する文学者や芸術家の名前を列挙しています。今年は「南吉と読書」をテーマに特別展を開催していたため、この展示に合わせて、南吉の旺盛な読書ぶりを紹介しました。

続いて半田少女少女合唱団のみなさんに、南吉の詩「枇杷の花」と「明日」を歌ってもらいました。エントランスいっぱい広がる歌声は、夏の暑さを一時忘れさせるもので、大きな拍手が送られました。

それから式典の参加者と來館者のみなさんに献花をお願いして、式典は終了へ。最後に山桃ジュースを振舞い、乾杯も行って和やかに幕を閉じました。

また、今年も南吉へのお祝いメッセージやイラストを募集したところ、たくさん応募がありました。数にして百十三件、例年の約二倍です。これは夏の特別展が、ゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップしたものであったことが理由です。ファンの方が、メイ

ンの展示に限らず記念館の行事にも興味を持ち、参加された影響で、例年より数が増えたのだとした。いつもと少し雰囲気^{ことば}が異なりながらも、南吉を言祝^{ことば}ぐ想いは変わらず、とても賑やかなメッセージボードを作ることができました。

*

ほか、生誕祭の行事として七月二十七日(土)には「正八ちゃん^{ことば}の宵祭り」も開催しました。

祭りの始まりは笛の音とともに。日が沈み始めた頃、記念館の芝生広場に地元^{ことば}の山車組(岩滑山車保存会・岩滑新田平井組・岩滑新田奥組)のみなさんが登場し、お囃子の演奏を行ないました。続いて、地元の子どもたちによる「献灯隊」の出番です。「勇み囃子」とともに歩を進め、南吉の写真が飾られた祭壇へランプを運んでくれました。

その後は盆踊りの時間です。岩滑盆踊唄保存会の協力で、南吉も踊った岩滑盆唄「シヨンガイナ」などを演奏しました。

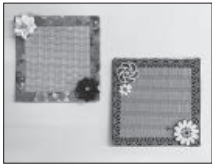
この日はとても暑い一日で、日が落ちてからも蒸し



暑く、汗が吹き出すほど。途中で行なったアイスキャンディーの振る舞いはもちろん盛況で、暑さにめげず、夜遅くまで踊りの輪が広がりました。

*

生誕祭の期間中(七月二十七日〜三十日)は、南吉作品の朗読や演奏、人形劇の上演や、ワークシヨップも開催しました。特に「晝を使ったコースターを作ろう!」が人気で、南吉の父が晝屋を営んでいたことにちなんで、小さな晝に思い思いの飾り付けをしてもらいました。



企画展 開催中

新美南吉記念館 開館30年の歩み



新美南吉記念館の前身は南吉資料室ですが、そのまた前身があることはご存じでしょうか。

始まりは一本の書棚でした。昭和三十三年、四年頃、

南吉の母校である岩滑^{やなべ}小学校(旧・半田第二尋常小学校)の応接室に設置されたもので、置いたのは同校の教諭だった大石源三氏です。地元^{ことば}の南吉研究の第一人者であり、後に新美南吉顕彰会の事務局長も務めました。

大石氏は書棚を「新美南吉文庫」(右写真)と名付けると、南吉の童話集や紙芝居、雑誌などを集め始めました。それを知った南吉

の中学時代の同級生や安城高等女学校時代の教え子からは、南吉の自筆原稿や写真、卒業アルバムなどが寄せられ、文庫は充実してきました。また、昭和三十四年九月に伊勢湾台風で南吉の離れの家が倒壊すると、遺族が保管していた南吉の蔵書や遺品なども文庫で預かることになったのです。

その後、大石氏が岩滑小学校から異動したのを機に、文庫は岩滑公民館の中へ移設され、昭和五十二年、岩滑コミュニティセンター開館に合わせて、センター内の一室に「南吉資料室」がオープンしました。南吉の貴重な資料にふれられる場所として、南吉ファンや研究者など多くの人が訪れました。

時は経ち、平成六年六月五日、南吉記念館は同じ岩滑に開館しました(下写真/当時)。それから三十年。当館では現在、企画展「新美南吉記念館 開館30年の歩み」を開催しています。



第一章 記念館が出来る前
第二章 記念館オープンへ
第三章 記念館の主要事業
第四章 こんなことがありました
第五章 記念館を支えてきた人々たち
第六章 記念館のこれから

*

六章構成で、開館前から今までの活動の記録や南吉にまつわる出来事をご紹介します。ぜひ一度ご来館ください。

*

【関連行事】

ミュージアムトーク
11月2日(土)、16日(土)、
12月1日(日)、15日(日)、
令和7年1月11日(土)
時間 11時
場所 記念館展示室

対談講演会「文豪」コンテンツとこれからの新美南吉記念館

記念館ではこの夏、初めてゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップした特別展を開催しました。さらに八月二十四日(土)に、ほしぎきホール(知多信用金庫)で関連企画として対談講演会も開催すると、大変好評を博しました。その講演内容を報告します。

講演会では初めに、講師としてお招きした日本大学経済学部教授の山岸郁子さんと、ゲーム「文豪とアルケミスト」(以下文アル)プロデューサーの谷口晃平さんに、それぞれ話を伺いました。

山岸さんからは、そもそも文豪とは何かということ。これまでいかに文豪という言葉が作家に新たな価値を付与し、消費されてきたのか講演してくださいました。中でも文学の大衆化の一例として、昭和初期に

対比を強く意識していた、という制作秘話などを明かしてくださいました。

それから休憩を挟んで、後半の対談へ。記念館館長がコーディネーターとなつて、講師のお二人へ様々な質問をしていきました。

南吉はいわゆる文豪たちの中では、まだ若い世代に分類されます。今年、開館三十周年を迎えた新美南吉記念館ですが、開館当初に

撮られた「現代日本文学巡礼」の紹介があったのが印象的でした。

続いて谷口さんからは、ゲームについてのことを。文アルがどんなゲームであるかの説明に

始まり、ゲーム構想段階から南吉の名前が挙げられていたことや、宮沢賢治との

長が質問すると、山岸さんからは、近年南吉のような児童文学作家に限らず、推理小説家などの大衆文学作家も文豪と呼ばれるようになってきた、と答えがありました。谷口さんも自身の

中純文学や児童文学などの垣根はなく、近代文学が好きなので、それらの作家を幅広く知ってもらいたいという思いから、全員文豪としてゲームで提示しているとのことでした。

そんな文アルという新しいメディアの登場により、近頃、絶版となった小説が復刊したり、若い人が地元作家に興味を持ち、文学館に訪れるという現象も起きています。これについて聞くと、谷口さんは「文学の入り口でありたいという思いでいたので、非常に嬉しい」と話していました。また山岸さんによると、文アルを起点に卒業論文を書く学生も増えているのだとか。そして、潜在的読者を

掘り起こしてくれる文アルには「メリットしかない」と力説されていました。

南吉は「ごんぎつね」が小学校四年生の国語教科書に全社採用されています。四年生になれば南吉の作品を必ず読むという状態が長年続いています。一方「ごんぎつね」と「手袋を買いに」以外の作品は、この二つと比べればあまり読まれていません。南吉には「鳥右エ門諸国をめぐる」「尻」のように、大人にこそ深く響いてくる作品がたくさんあります。今回記念館が文アルとタイアップしたのは、南吉作品が子どもたちのための文学故に道徳性を求められることから開放したい——弱さや醜さを含めた人間の真の姿と生きる苦悩を子どもにも分かるように書いた、新美南吉という作家を知って欲しい、という思いがありました。

館長はそうした思いを語りつつ、最後に「広く南吉作品の魅力を伝えるには、それぞれの世代にあったメディアの力が必要で、ゲームもその一つとして有効なのだろう」とまとめました。



© 2016 EXNOA LLC



記念館からのお知らせ

企画展「新美南吉記念館開館30年の歩み」

南吉記念館は、ことし開館30周年を迎えました。開館前からこれまでの出来事を、パネルと資料でご紹介します。

会期 令和7年1月13日(祝・月)まで



開館当時の記念館
(平成6年)



ガリ版体験

南吉も手づくりの詩集やテストを印刷するのに使ったガリ版(謄写版)を使って、ハガキに印刷してみよう!

日時 11月17日(日) ※要申込み

①10時~11時30分/②13時30分~15時

〈記念館HP〉



日誌抄:

五月(皐月)

▼3~5日 「正八ちゃんの端午の節句」。1521人参加▼19日 第一回「童話創作講座」。23人参加▼22日 新美南吉顕彰会理事會。於記念館会議室▼26日 第198回「新美南吉読書會」。22人参加

六月(水無月)

▼1日 第36回新美南吉童話賞募集開始▼5日 新美南吉記念館が開館30年を迎える▼8日 第一回「ガイドボランティア養成講座」

▼15日 文学講座「南吉のセンス・オブ・ワンダー」

37人参加▼22日 第二回「ガイドボランティア養成講座」▼23日 第199回「新美南吉読書會」。20人参加

▼30日 企画展「君は即ち春を吸いこんだのだ」南吉のセンス・オブ・ワンダー」終了。会期中観覧者数6811人▼同日 第二回「童話創作講座」。24人参加

七月(文月)

▼6日 第三回「ガイドボランティア養成講座」▼13

日 開館30周年記念・文豪とアルケミストタイアップ特別展「本に押し潰されて死ねば、本望です」南吉と読書」始まる(10月14日)▼19日 ガイドボランティア「南吉案内人」例会

▼20日 第四回「ガイドボランティア養成講座」▼21日 「石垣藤九郎が描く昔の岩滑展」終了。会期中観覧者数8334人▼27~30日 「新美南吉生誕祭」。1456人参加▼同日 「南吉の部屋で写真を撮ろう」。20人参加

八月(葉月)

▼3日 第五回「ガイドボランティア養成講座」▼4日 夏休み「ごんぎつね」教室。17人参加▼10日 「サヤ佳のおはなし會」。25人参加▼12日 「南吉の部屋で写真を撮ろう」。10人参加▼17日 第六回「ガイドボランティア養成講座」▼24日 対談講演会「文豪コンテツとこれからの新美南吉記念館。215人参加。於ほしぎきホール▼25日 第200回「新美南吉読書會」。14人参加▼31日 第七回「ガイドボランティア養成講座」

九月(長月)

▼6日 新美南吉記念館事業推進委員会▼10日 第36回新美南吉童話賞作品募集締切。応募総数1637編▼15日 「南吉の部屋で写真を撮ろう」。22人参加▼20日 「ごんの秋まつり」始まる(10月4日)▼25日 NHK「まるっと」で特別展が紹介される▼26日 「彼岸花ウォーク」。11人参加▼同日 「みんなの南吉展」始まる(10月6日)。於クラシテイ・半田赤レンガ建物▼27日 中日新聞の教育面で「ごんぎつね」が取り上げられる▼29日 「ハナノヒカリプロジェクト」。夜に彼岸花のライトアップが行なわれる。28日は半田商業高校とコラボしたイベントも。

暑さ寒さも彼岸まで、というけれど……

今年は異常な暑さで矢勝川の彼岸花の開花がとても遅れました。十月五日・六日頃が見頃となり、例年より一週間以上も後ろに。来年はどうなるでしょうか?

